

英語科教育法演習 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語科教育法 I・II の学習内容を踏まえ、個人模擬授業を行います。学習指導案を各自で作成し、I では授業成立度（成否）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。
- ② 指定課題は講義前にすべて読んでおきます。
- ③ teaching plan は夏季休暇中に提出し、指導教官の承認を受けておきます。
- ④ 英語による質疑応答に少なくとも毎時 1 度以上の発言が求められます。
- ⑤ 模擬授業での指導言は 8 割以上を英語で行います。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② 授業参加度（質疑応答）
- ③ demonstration class
- ④ 英語教育に対する姿勢（協調性・社会性を含む）
- ⑤ 学内外での研究会に 2 度以上参加し reaction papers 作成
- ⑥ 9 月教育実習研究授業を 3 度以上参観し、reaction papers 作成
- ⑦ book reports
- ⑧ teaching plans

【テキスト】

別途連絡します。

【参考文献】

別途連絡します。

英語科教育法 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期は、英語教育の在り方に関する理論的な研究成果を概観し、英語教師としての教育観並びに指導観を確立します。そのために、次の2点に注意を払います。まず、英語のコミュニケーション能力を高めることにより、英語を通して英語を教える能力を培います。次に、技能向上のみに偏ることなく、現在の学校教育に求められている「心の教育」に繋がる視点を養成します。講義は受講者による presentation を軸に行い、教授者がそれを支援する形で収束します。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

①無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。②英検 2 級以上またはこれと同等以上の資格取得者であること。③textbooks や指定図書は講義前に全て読んでおきます。④質疑応答・班内討議・全体討論においては少なくとも各 1 回以上の発言が毎時求められます。⑤講義時間以外の班活動や研究発表に準備を必要とします。受講には時間調節が不可欠です。⑥毎時行われる presentation に対応出来る日本語力・英語力と精神力が求められます。⑦講義初日の orientation の理解及び講義内容・形式への同意が受講の最低条件です。

【評価方法】

①授業出席度（原則皆勤） ② 授業貢献度（質疑応答・班内討議・全体討論） ③ 課題テストおよび中間・期末試験 ④ 英語教育に対する姿勢（協調性・社会性を含む） ⑤ 学内外の研究会へ少なくとも 2 度以上参加し reaction papers 作成 ⑥ 参考文献読書量 ⑦ book reports

【テキスト】

別途連絡します。

【参考文献】

別途連絡します。

英語科教育法 I

担当教員 津波 聡

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 学校教育全般の現状や課題を学び、求められる資質・技能を身につける
- (2) 英語教育の歴史、現状、理論、及び具体的な指導方法を学ぶ
- (3) 英語で指導できる運用能力の育成を図る

【授業の展開計画】

授業前半は、指定の教科の担当箇所及びそれに関連するトピックについてグループ発表、授業後半は全体討議を行う。グループ発表及び全体討議の内容を中間・期末テストに出題する。

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 登録時に英検 2 級合格証（又はそれに相当する TOEIC・TOEFL のスコア）の提出が必要
- (2) 事前に指定された教科書（章）を熟読する
- (3) 無断欠席・遅刻は認められない
- (4) 授業外での課題、グループ活動が要求される

【評価方法】

グループ発表、ディスカッション、定期テスト（2回）、ブックレポート、学外研究会（セミナー、講演会、ワークショップ等）への参加を総合的に評価する

【テキスト】

授業の中で連絡する

【参考文献】

授業の中で紹介する

英語科教育法Ⅱ

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

前期履修済みの「英語科教育法Ⅰ」で学んだ教育観及び指導観を踏まえ、後期は実際の教室での指導に役立つ知識や技能の養成を目指します。そこで、micro-teaching を試みます。これを通して、教材分析力・教材作成力・教案構成力を培います。また、micro-teaching を核に展開しながら、前期で cover していない項目や更に深く掘り下げる内容を取り上げ、理論と実践の橋渡しを試みます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。
- ② テキストや指定課題は講義前にすべて読んでおきます。
- ③ micro-teaching は用意周到に対応願います。
- ④ 英語による質疑応答には少なくとも各1回以上の発言が毎時求められます。
- ⑤ 講義時間以外の班活動や研究発表に準備を必要とします。受講には時間調節が不可欠です。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② 授業貢献度（mini-lesson / 質疑応答）
- ③ 課題テストおよび中間・期末試験
- ④ 英語教育に対する姿勢（協調性・社会性を含む）
- ⑤ 学内外の研究会へ2度以上参加し reaction papers 作成
- ⑥ 参考文献読書量
- ⑦ 6月研究授業を3度以上参観し reaction papers 作成
- ⑧ book reports

【テキスト】

別途連絡します。

【参考文献】

別途連絡します。

学校カウンセリング

担当教員 大嶺 和歌子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

教育心理学の基礎、進路指導、生活指導のより実践的な知識をふまえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：講義の進め方、評価の方法などに関して説明する。
2	学校カウンセリングとは
3	カウンセリングとは
4	学校カウンセリングと発達課題①
5	学校カウンセリングと発達課題②
6	教室におけるカウンセリング①
7	教室におけるカウンセリング②
8	教師とカウンセリング
9	スクールカウンセリングの実際
10	問題行動①不登校といじめ
11	問題行動②非行と摂食障害
12	問題行動③性行動
13	発達障害
14	保護者・地域・専門家との連携
15	教師のストレス・マネジメント
16	期末試験

【履修上の注意事項】

教科書必携

5回以上の欠席は試験資格なし

【評価方法】

講義終了時に講義内で回答した課題カードを提出。
課題カードへの回答を2点満点で評価する。

期末試験はレポート課題を課す。
課題カードの得点(30点)とレポート得点(70点)の合算で行う。

【テキスト】

学校カウンセリング入門 友久久雄著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

臨床心理学の世界 菅佐和子著 有斐閣アルマ
教室で生かすカウンセリングマインド 桑原知子 日本評論社
ほか、適宜講義で紹介する。

学校カウンセリング

担当教員 片本 恵利

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目では、教育心理学の基礎、進路指導・生活指導のより実践的な知識を踏まえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、グループワーク、ロールプレイ等を交え学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録調整
2	学校カウンセリングとは
3	異性の理解とライフサイクル理論にもとづいてキャリア・子育て・生徒指導を考察する
4	臨床心理学の基礎知識① 無意識についての理論～フロイトとユング
5	発達理論～フロイトを中心に
6	カウンセリングの実際①
7	心理テストの注意点
8	学校におけるカウンセリングの注意点 カウンセリングと教師の役割 ～ロジャーズの理論
9	問題行動の理解① 不登校への対応（思春期のカウンセリングと心理療法の各種技法）
10	問題行動の理解② 非行への対応（過ちを犯した生地に反省を促し、行動の改善を図る）
11	学校現場での緊急事態への対応の実際（ワークショップ）
12	こころの病の理解と自殺予防
13	教師のメンタルヘルス
14	保護者・地域・他の専門機関との連携～クレームへの対応をめぐる～
15	まとめ・振り返り
16	

【履修上の注意事項】

受講環境を考慮して他のクラスへ移動してもらうこともある。

【評価方法】

課題レポート、筆記試験、講義への参加態度などから総合的に評価する。なお、教職を目指すための「読む」「書く」「話す」を重視する。

【テキスト】

教科書は使用しない。適宜資料を配付する。

【参考文献】

菅佐和子他「臨床心理学の世界」有斐閣 桑原知子 「教室で生かすカウンセリングマインド」日本評論社
 氏原寛「実践から知る学校カウンセリングー教師カウンセラーのためにー」培風館 高橋祥友「自殺予防」岩波
 新書 藤掛明「非行カウンセリング入門」金剛出版 岩宮恵子「フツウの子の思春期」岩波書店 他

教育課程・教育方法

担当教員 三村 和則

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）並びに教育課程の意義及び編成の方法に係る科目として設けられた科目である。本講義では学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術、ならびに授業の背景をなし授業をひとつの主要な場面として具体化する教育課程について論じる。

【授業の展開計画】

授業を「教えること(教授)」と「学ぶこと(学習)」の統一された過程として捉え、そのような授業を成立させるための指導力量を授業以前の「指導案づくり」の力量と授業の中での「授業展開のタクト」の力量に区別し、それらの力量形成と上達のための方法論を解説していく。その中で「指導案づくり」と「授業展開のタクト」と関連させながら、情報機器や教材の活用について触れる。また、教科とその他の領域の教育課程について、その意義と歴史及び編成方法についても内在化して論じる。

週	授 業 の 内 容
1	授業びらき
2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業
3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷
4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立
5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴
6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析
7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方
8	指導案づくり2 指導目標と学力観
9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展/教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材
10	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程
11	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)
12	指導言の構想と発問づくり1 発問とは何か
13	指導言の構想と発問づくり2 その他の指導言/本時の展開計画の典型例
14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法
15	授業実践と授業展開のタクト/教育工学的方法と教育機器の活用
16	試験

【履修上の注意事項】

抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。
教科教育法科目の履修内容との関連を意識することで、相互の科目の理解が促進されるであろう。

【評価方法】

小レポートを3回程書いてもらう。その3分の2以上の提出をもって学期末試験の受験資格とすることがある。評価は学期末試験によって行い、小レポートの提出状況と内容により±3点を加点する。試験が論述問題の場合、各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して（100%＝満点）配点する。

【テキスト】

恒吉宏典他編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。

【参考文献】

1. 三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ボーダーインク、2010年。 2. 岩垣攝他編『吉本均著作選集（全5巻）』明治図書、2006年。 3. 吉本均編著『新 教授学のすすめ（全5巻）』明治図書、1989年。 4. 岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。 5. 深沢広明編著『教育の方法・技術』協同出版、2014年。

教育心理学

担当教員 片本 恵利

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は、教職科目を履修するに当たって必要な心理学的知識と理論を学習する入門科目である。発達・学習・教育評価・障害と問題行動の理解を柱として、基本的な事項を学ぶ予定である。また、教職課程を本格的に履修するにあたって教職課程履修の準備ができているかを見極める「関門科目」でもある。教壇に立つことを念頭においた厳しい基準で成績評価を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録調整
2	なぜ教育心理学を学ぶのか? ・ 学問的態度の基礎
3	発達① 青年期の発達
4	発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論
5	発達③ 「発達」の視点を教育に活かす (発達理論を用いた授業の工夫)
6	学習・教育① ささまざまな学習理論
7	学習・教育② 動機づけ
8	学習理論を教育に活かす (学習理論を用いた指導の工夫)
9	教育評価① 教育評価の考え方 (近代科学・統計学の考え方の基礎)
10	教育評価② 知能・知能テスト
11	教育評価③ 教育評価の注意点 (テストや通知表の活用)
12	障害の理解① ささまざまな障害
13	障害の理解② 発達障害 LD・AD/HD・広汎性発達障害
14	こどもとのコミュニケーション
15	まとめ・振り返り
16	

【履修上の注意事項】

本学独自の履修階梯により、「教職研究Ⅰ」の単位を取得済みであることが受講の前提条件となる。(履修階梯の詳細については教職課程スタートの科目に当たる「教職研究Ⅰ」で説明する。)

受講環境を考慮して、他のクラスへ移動してもらうこともある。

【評価方法】

課題レポート、筆記試験、授業への参加態度などから総合的に評価する。教職を目指すに当たって必要な「読む・書く・話す」力を身につけていることを単位取得の条件とするため、予習・復習の課題レポートを重視する。

【テキスト】

仲 淳「こどものこころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」あいり出版

【参考文献】

北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社
金森俊朗「希望の教室」角川書店 他

教育心理学

担当教員 大家 聡樹

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

教育の思想と原則

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、教員免許取得に際して単位の修得が必要とされる「教職に関する科目」のうち、とくに「教育の基礎理論に関する科目」に該当するものである。おもに歴史的な観点から、近代公教育理念・原則の意義とその実現をめぐる問題について取り扱う。近代において生み出された公教育の理念・原則が、資本主義の展開のもとでいかなる運命を辿っていったのかを歴史的に整理することを通じ、現代日本の学校教育の課題を確認し、教職を志す者が今後考えていくべき課題を模索する。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 近代以前の教育思想 (1) ー諸外国
- 3 近代以前の教育思想 (2) ー日本
- 4 近代教育の成り立ちと変遷 (1) ー市民社会の理念と公教育
- 5 近代教育の成り立ちと変遷 (2) ー市民社会の現実と公教育
- 6 近代教育の成り立ちと変遷 (3) ー市民社会の構造転換と公教育
- 7 近代教育の成り立ちと変遷 (4) ー帝国主義下における公教育
- 8 近代教育の成り立ちと変遷 (5) ー戦前・戦中の日本の教育①
- 9 近代教育の成り立ちと変遷 (6) ー戦前・戦中の日本の教育②
- 10 戦後日本の教育 (1) ー戦後教育改革
- 11 戦後日本の教育 (2) ー冷戦構造と教育①
- 12 戦後日本の教育 (3) ー冷戦構造と教育②
- 13 戦後日本の教育 (4) ー経済成長と教育
- 14 今日における教育の課題 (1)
- 15 今日における教育の課題 (2)
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

「教職研究 I」を履修していなければ、受講できない。遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

なお、初回の授業においては、履修上の注意・評価方法についてより具体的な説明をおこなうので、受講希望者は必ず出席すること。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上の出席がなければ、期末試験の受験は認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

教育の思想と原則

担当教員 福島 賢二

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、すべての人に教育を受ける機会を提供したとされる近代公教育制度が抱える矛盾を、3つの視角（①権利侵害、②価値の強制、③能力差別）から分析していく。こうした考察を経て、よき営みとされる公教育（学校教育）の存在を相対化するとともに、公教育としてのあるべき姿を、原理的に考察できるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 教育とは何かー教育の概念
- 3 学校とは何かー近代学校の成立と特徴
- 4 映画『僕らの七日間戦争』鑑賞
- 5 子どもの権利（条約）（1）
- 6 子どもの権利（条約）（2）
- 7 国民国家と教育／映画『私を生きる』鑑賞
- 8 教育における「価値の強制」－「君が代」斉唱（1）
- 9 教育における「価値の強制」－「君が代」斉唱（2）
- 10 教育における「価値の強制」－「君が代」斉唱（3）
- 11 教育における「価値の強制」－「君が代」斉唱（4）
- 12 国は道徳を教えられるか
- 13 教育の主役は誰かー「国民の教育権」論／「親の教育権」論
- 14 教育における能力主義
- 15 教育における平等
- 16 試験

【履修上の注意事項】

- (1) 指定テキストの購入が義務づけられる。
 - (2) テキストは事前に読んでくること。テキストを読んでいることを前提に授業を進める。
 - (3) 毎時間、出席をとる。30分以上の遅刻は「欠席」として扱う。
 - (4) 本授業は週2クラス開講されるが受講を均等にするため抽選を行う（抽選漏れの相談は原則応じない）。
- ※ 以上の事柄をすべて遵守できるもののみ履修登録をすること。

【評価方法】

評価は、①出席状況（受講態度含む）、②レポート課題の提出状況とその内容、③期末試験の成績、によって総合的に行う。ただし期末試験の加味する割合が最も高いため、期末試験を受けないものは「不可」とする。

【テキスト】

現時点では以下①②③の図書がテキストとしての候補である。確定テキストの購入は授業でアナウンスする。
①田中伸尚『ルポ良心と義務』岩波新書、2012、760円＋税。②西原博史『子どもは好きに育てていい』NHK出版、2008年、700円＋税③青砥恭『ドキュメント高校中退』ちくま新書、2009、777円。

【参考文献】

高橋哲哉『教育と国家』講談社、2004年。堀尾輝久『現代教育の思想と構造』岩波書店、1971年。桜井哲夫『「近代」の意味』NHKブックス、1984年。喜多明人ほか著『逐条解説 子どもの権利条約』日本評論社、2009。青砥恭『ドキュメント高校中退』ちくま新書、2009年。竹内章郎『弱者の哲学』大月書店、1993。

教育の制度

担当教員 福島 賢二

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、教育法・教育行政・教育課程・教育改革という教育の諸制度について学習していく。授業では、単に「制度」という仕組みに関わる概説をするのではなく、その制度がどのような政治的力学のもとで構築されているのか、そしてその制度は学習者の「教育を受ける権利」を保障するものとなっているのか、という点に光をあてながら行っていく。本授業の目標は以下の通りである。第1に、教育の制度という仕組みを理解すること、第2にその制度が政治的力学のもとで構築されていることを理解すること、第3に学習者の権利保障の観点から制度の評価ができるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス、「教育制度」とは何か
- 2 映画『夜間中学記録 こんにちは』鑑賞
- 3 夜間中学と教育を受ける権利
- 4 教育法（1）－教育基本法①
- 5 教育法（2）－教育基本法②
- 6 教育法（3）－教育基本法改正①
- 7 教育法（4）－教育基本法改正②
- 8 教育課程制度（1）－学習指導要領
- 9 教育課程制度（2）－教科書検定制度
- 10 教育課程制度（3）－家永教科書裁判
- 11 教育課程制度（4）－教科書採択制度
- 12 教育行政制度（1）－中央教育行政
- 13 教育行政制度（2）－地方教育行政①
- 14 教育行政制度（3）－地方教育行政②
- 15 近年の教育制度改革－新自由主義教育改革
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 授業は週3クラス開講されるが受講者が均等になるよう抽選を行う（抽選漏れの相談は原則応じない）。
- (2) 授業の展開計画や進度は、受講者の理解能力や興味関心に応じて変わることがある。
- (3) 毎時間、出席をとる。30分以上の遅刻は「欠席」として扱う。
- (4) ほぼ毎時間、大量の資料が配布される。各自でポケット式ファイル（A4版）を用意し、日々資料の整理に努めること。資料は、毎時間持参すること。

【評価方法】

評価は、①出席状況（受講態度含む）、②レポート課題の提出状況とその内容、③期末試験の成績、によって総合的に行う。ただし期末試験の加味する割合が最も高いため、期末試験を受けないものは「不可」とする。

【テキスト】

今のところテキストを使用する予定はない。授業の展開によってはテキスト購入の指示を行うこともある。

【参考文献】

世取山洋介他『公教育の無償性を実現する』大月書店、2012。佐貫浩ほか編『新自由主義教育改革』大月書店、2008。西原博史『教育基本法「改正」』岩波書店、2004。平原春好・神田修編著『ホーンブック教育行政学』北樹出版、2000。堀尾輝久『教育基本法はどこへ』有斐閣、1986年。兼子仁『国民の教育権』岩波書店、1971年。

教職研究 I

担当教員 片本 恵利

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくというものの理解を深めることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録調整
2	今日の教員養成の在り方にもとづいた教職課程履修の理解
3	青年期の発達と進路選択の観点から「教師になること」を考察する①
4	学問的態度の基礎と教職
5	青年期の発達過程と進路選択の観点から「教師になること」を考察する②
6	教師として生きる～映画で見る教師像
7	教師に求められる倫理
8	まとめ・振り返り
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

- ①教職課程履修を希望する学生はまずこの科目から履修すること（本学教職課程には「履修階梯」があり、本科目の単位が取得済みでないと登録できない科目が多数ある）。
- ②受講環境を考慮して他のクラスに移動してもらうこともある（ただし当該学期のいずれかのクラスに登録できるよう十分クラス数を開講している）。
- ③初回の持参物： i) 履修ガイド ii) 各自の考える「教師に求められる資質」をリストアップした用紙

【評価方法】

毎回の講義への出席・参加態度・提出物等から総合的に判断する。予習復習、大学生としての「読む」「書く」「話す」力を身に付けていることを重視し、将来教壇に立つことを念頭において厳しく評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義の中で適宜配布する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。

【参考文献】

講義中に指示する。

教職研究 I

担当教員 三村 和則

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

教育職員免許法（教免法）上の「教職の意義等に関する科目」（2単位）として位置づけられている科目の1単位分を成す科目である。教免法では「教職の意義等に関する科目」の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供等③教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）と定めている。本学では1年次を対象に①②を中心とした教職研究 I（1単位）と、3年次を対象に①③を中心とした教職研究 II（1単位）に分けて開設している。

【授業の展開計画】

本講義では教職課程カリキュラムと教員養成の仕組みについて学ぶとともに現代社会における教職の意義と教員の役割について研究する。また、教職適性検査などを通して、教職をめざすことについて、自らを省みる機会を提供する。

- 1：ガイダンス／先発・後発クラス分け / 課題レポートの提示（「なぜ、教師をめざすのか」）
- 2：教職課程の履修方法について（『履修ガイド』の解説） 1 教職に関する科目 他
- 3：教職課程の履修方法について（『履修ガイド』の解説） 2 教科に関する科目、その他の指定科目 他
- 4：教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力
- 5：教職実践演習について / 教職適性検査（V P I 職業興味検査と自己判定）
- 6：教員養成の歴史（戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成） / 世界の教員養成
- 7：履修カルテについて / よい教師への道 1（履修計画、ライフプラン）
- 8：よい教師への道 2（公務員と教員の関係、自主研修、メッセージ） /
まとめ／課題レポートの提示（「再び、なぜ、教師をめざすのか」）（予備：小説・ドラマの中の教師）

【履修上の注意事項】

教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講すること。

抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。

1単位科目なので7(8)週目に終了する。そのため受講者数の関係で前期は先発と後発のクラスに分ける。先発クラスは4～6月、後発クラスは6～7月が受講期間の目安である。後期は先発クラスのみで終了予定で、10～12月初旬が受講期間の目安である。

【評価方法】

5件提出物がある。最後の提出物（「再び、なぜ教師をめざすのか」）で、まず仮の評定を決める。決め方は、7回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評定を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評定とする。但し、1件以下の場合不可の評定とする。

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配布する。

【参考文献】

1. 赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。 2. 教養審第1次答申『新たな時代に向けた教員養成の改善方策について』1997年。 3. 中教審答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について』2006年。

教職研究Ⅱ

担当教員 福島 賢二

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

本授業は、教育職員免許法の「教職の意義等に関する科目」（2単位）として位置づけられている科目の1単位分の科目である。すでに履修済みの「教職研究Ⅰ」（1単位）の発展科目である本授業（教職研究Ⅱ）では、学校現場における主要なテーマを5つ取り上げ、その中から1つを選択し、グループに分かれて調べ学習及びその結果報告を行ってもらおう。学校現場で問題となっている〈生のテーマ〉を素材に、その対応方法を根拠に裏付けられた形で思考し、言語化できるようになることが目標である。また、学校現場で不可欠の要素である協働（協働）性を育むことも目標である。

【授業の展開計画】

0 ガイダンス／前半・後半クラス分け、グループ分け

（※ 以下、「前半クラス」のスケジュール）

- 1 グループ報告準備
- 2 グループ報告準備
- 3 グループ報告（1）－教職の多忙化
- 4 グループ報告（2）－教員の身分保障
- 5 グループ報告（3）－「学力低下」論
- 6 グループ報告（4）－子どもの貧困
- 7 グループ報告（5）－教育の平等

（※ 以下、「後半クラス」のスケジュール）

- 1 グループ報告準備
- 2 グループ報告準備
- 3 グループ報告（1）－教職の多忙化
- 4 グループ報告（2）－教員の身分保障
- 5 グループ報告（3）－「学力低下」論
- 6 グループ報告（4）－子どもの貧困
- 7 グループ報告（5）－教育の平等

（※上記3～7のテーマは前年度の実績によるため変更の可能性あり）

（※ 以下、「前半クラス」「後半クラス」両方に該当）

8 まとめ（レポート課題）

【履修上の注意事項】

- (1) 「前半クラス」と「後半クラス」に分けて受講する。
- (2) 教育実習の事前科目であるため遅刻・欠席のみならず、報告レジュメ、レポートの未提出は認めない。
- (3) 報告を怠ったり、調べ学習に協力しない学生は、履修をとりやめてもらふことがある。
- (4) 受講を途中で辞める場合は、必ず担当教員まで連絡すること。

【評価方法】

①授業への積極的参加・貢献度（物事を理論的に考え、それを言語化し、質問・意見をいう能力の獲得を目指している）、②調べ学習に関するレジュメの内容及び報告の内容及びグループへの貢献度、③最終レポートの内容、を総合し、最終評価を行う。

【テキスト】

以下の文献を参考文献として購入してもらふ可能性がある。村山晃ほか編『教職員の権利』旬報社、2012年、1800円＋税。購入の決定に関わるアナウンスは授業内で行う。

【参考文献】

田中孝彦ほか編『現実と向きあう教育学－教師という仕事を考える25章』大月書店、2010年。村山晃ほか編『教職員の権利』旬報社、2012年。今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波書店、2012。

教職実践演習

担当教員 仁野平、喜屋武、福島、神山、藤波、三村、津田、田場、崎浜、小川、喜瀬、野口、吉浜、片本、比嘉靖、芝田、野見、仲里、清村、安里、比嘉昌哉、前堂

対象学年 4年

開講時期 その他

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教職課程における四年間の学びを発展的に振り返ることで、これまで培ってきた数々の学習知・実践知の統合をはかる。また、授業全体を通じ、受講者相互の協力・協働を前提とした課題設定を行うことで、社会生や対人関係能力をはかる。

【授業の展開計画】

大きく、次の三つの観点から、四年間の学びを反省・統合する。(1)授業実践研究：課題の克服をふまえた、教育実習における授業の再実践。(2)教科活動研究：児童生徒理解、学級経営能力の錬成中心とした模擬教科外活動実践。(3)教育科学研究：教育現場の現在および将来についての社会科学的考察、討議。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	授業実践研究(1)教育実習における授業実践の振り返り・再検討①
3	授業実践研究(2)教育実習における授業実践の振り返り・再検討②
4	授業実践研究(3)模擬授業①
5	授業実践研究(4)模擬授業②
6	授業実践研究(5)模擬授業③
7	教科外活動研究(1)教育実習における教科外活動実践の振り返り・再検討①
8	教科外活動研究(2)教育実習における教科外活動実践の振り返り・再検討②
9	教科外活動研究(3)模擬教科外活動実践①
10	教科外活動研究(4)模擬教科外活動実践②
11	教育科学研究(1)大学における学びと学校現場における学びの比較検討①
12	教育科学研究(2)大学における学びと学校現場における学びの比較検討②
13	教育科学研究(3)教育現場の現在および将来についての社会科学的考察・討議①
14	教育科学研究(4)教育現場の現在および将来についての社会科学的考察・討議②
15	まとめ
16	定期試験等

【履修上の注意事項】

【評価方法】

クラス担当教員三者の合議により、総合的に判断する。

【テキスト】

ガイダンス時に、クラス担当教員が指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

国語科教育法演習 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこなう。前期の国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこなう。模擬授業担当者は、指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成・配布したうえで模擬授業に臨むこと。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|---|-----------------|----|-----------|
| 1 | ガイダンス | 9 | 模擬授業と研究討議 |
| 2 | 国語科授業の改善と工夫（講義） | 10 | 模擬授業と研究討議 |
| 3 | 模擬授業と研究討議 | 11 | 模擬授業と研究討議 |
| 4 | 模擬授業と研究討議 | 12 | 模擬授業と研究討議 |
| 5 | 模擬授業と研究討議 | 13 | 模擬授業と研究討議 |
| 6 | 模擬授業と研究討議 | 14 | 模擬授業と研究討議 |
| 7 | 模擬授業と研究討議 | 15 | 模擬授業と研究討議 |
| 8 | 模擬授業と研究討議 | 16 | 模擬授業と研究討議 |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②毎時間、A4一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③毎時間1名指名し、教員が用意した文章の朗読を行う。④授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。⑤模擬授業担当者は、模擬授業終了後翌週までに授業のリフレクションシートを作成し受講者及び教員に配布すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②指導案の内容、取り組み状況、討論への参加状況提出物等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

国語科教育法演習 I

担当教員 未定

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国語科教育法演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこなう。国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこなう。模擬授業担当者は、指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成・配布したうえで模擬授業に臨むこと。

【授業の展開計画】

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 ガイダンス | 9 模擬授業と研究討議 |
| 2 国語科授業の改善と工夫（講義） | 10 模擬授業と研究討議 |
| 3 模擬授業と研究討議 | 11 模擬授業と研究討議 |
| 4 模擬授業と研究討議 | 12 模擬授業と研究討議 |
| 5 模擬授業と研究討議 | 13 模擬授業と研究討議 |
| 6 模擬授業と研究討議 | 14 模擬授業と研究討議 |
| 7 模擬授業と研究討議 | 15 模擬授業と研究討議 |
| 8 模擬授業と研究討議 | 16 模擬授業と研究討議 |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②毎時間、A4一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③毎時間1名指名し、教員が用意した文章の朗読を行う。④授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。⑤模擬授業担当者は、模擬授業終了後翌週までに授業のリフレクションシートを作成し受講者及び教員に配布すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②指導案の内容、取り組み状況、討論への参加状況提出物等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

国語科教育法演習Ⅱ

担当教員 國場 厚子

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこなう。国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこなう。模擬授業担当者は、指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成・配布したうえで模擬授業に臨むこと。

【授業の展開計画】

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 ガイダンス | 9 模擬授業と研究討議 |
| 2 国語科授業の改善と工夫（講義） | 10 模擬授業と研究討議 |
| 3 模擬授業と研究討議 | 11 模擬授業と研究討議 |
| 4 模擬授業と研究討議 | 12 模擬授業と研究討議 |
| 5 模擬授業と研究討議 | 13 模擬授業と研究討議 |
| 6 模擬授業と研究討議 | 14 模擬授業と研究討議 |
| 7 模擬授業と研究討議 | 15 模擬授業と研究討議 |
| 8 模擬授業と研究討議 | 16 模擬授業と研究討議 |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②毎時間、A4一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③毎時間1名指名し、教員が用意した文章の朗読を行う。④授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。⑤模擬授業担当者は、模擬授業終了後翌週までに授業のリフレクションシートを作成し受講者及び教員に配布すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②指導案の内容、取り組み状況、討論への参加状況提出物等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。

国語科教育法 I

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国語科教育法Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講は国語科の授業における諸教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案の作成ができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

第1回～3回、第16回は担当教員による講義。第4回～第15回は学生が指定の課題に取り組み、レジュメ等の資料を作成して発表し、それに対する質疑応答と討論を行う。さらに、担当教員のコメントを行う。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	授業と学習指導案
3	国語科教材論と教材化の視点
4	教材研究と学習指導案の研究 1
5	教材研究と学習指導案の研究 2
6	教材研究と学習指導案の研究 3
7	教材研究と学習指導案の研究 4
8	教材研究と学習指導案の研究 5
9	教材研究と学習指導案の研究 6
10	教材研究と学習指導案の研究 7
11	教材研究と学習指導案の研究 8
12	教材研究と学習指導案の研究 9
13	教材研究と学習指導案の研究 10
14	教材研究と学習指導案の研究 11
15	教材研究と学習指導案の研究 12
16	総括

【履修上の注意事項】

- ①「国語科教育法Ⅰ」の単位を修得していること。
- ②無断欠席・無断遅刻・無断の途中退出は一切認めない。
- ③授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。

【評価方法】

発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

各自の必要に応じて中学校・高等学校の教科書を購入する。

【参考文献】

社会科・公民科教育法

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・高等学校学習指導要領（公民編）を理解できる。
- ・公民科授業の実際を把握できる。
- ・公民＝社会の一員として持つ自由と責任について理解できる。
- ・公民を育てる教師としての役割について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開講にあたって
2	高等学校学習指導要領公民編（1）
3	高等学校学習指導要領公民編（2）
4	公民科授業の実際（1）
5	公民科授業の実際（2）
6	公民科授業の実際（3）
7	公民としての自由と責任（1）－自由、秩序、法－
8	公民としての自由と責任（2）－正義、人格、平等－
9	公民としての自由と責任（3）－学校の一員としての自覚と役割－
10	公民としての自由と責任（4）－家族・コミュニティ・国－
11	公民としての自由と責任（5）－国際的視野の拡大と異文化理解－
12	模擬授業の方法
13	指導案づくりの方法
14	テスト（公民科学力試験）
15	まとめ：夏休みの課題提示
16	

【履修上の注意事項】

三村クラスと登録者の調整を行う。また、7月末に公民科学力試験を行い、合格点に達しない者は不可とする。さらに、レポート未提出や無断欠席・遅刻も一切してはならない。

【評価方法】

授業への参加状況と公民科学力試験の成績によって評価する。
遅刻と欠席が1度でもある場合、原則として不可とする。
学期末実施の公民科学力試験（大学入試センター試験レベル）の6割未満の成績の場合、不可とする。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

社会科・公民科教育法

担当教員 三村 和則

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高校公民科の指導法に係る科目である。

わが国の中等社会科教育、特に公民科教育についてその歴史、目的および内容の批判的検討、ならびに教材研究と授業方法の考察を通して、中等社会科教育、特に公民科教育の理論の修得を目標とする。

【授業の展開計画】

まず、高校公民科の教材研究と授業方法について授業実践記録などを通して研究する。次に、わが国の中等社会科と高校公民科の歴史を考察することで、これら教科の性格・目的・内容について理論的に明らかにする。毎時間、指定された課題についての報告とそれに対する質疑応答・全体討論・コメントという形式で進行する。

週	授 業 の 内 容
1	クラス分け / 講義ガイダンス
2	公民科批判的リテラシーの方法 / 学級組織編成
3	「現代社会」のカリキュラム構造
4	「政治・経済」のカリキュラム構造
5	「倫理」のカリキュラム構造
6	わが国の中等社会科の成立と展開 1 「公民」概念の変遷
7	わが国の中等社会科の成立と展開 2 「公民」名称復活の問題性
8	高校社会科解体の問題性 1 地理歴史科と公民科分離の問題点
9	高校社会科解体の問題性 2 社会科解体の対抗軸を考える
10	公民科授業づくりの工夫 1 日常の世界から科学の世界へ、「ウソッ!」「ホント!」教材
11	公民科授業づくりの工夫 2 絵・図・マンガの教材化、実際にやっておもしろい、社会認識変革教材
12	公民科授業づくりの工夫 3 一つのものから社会のしくみへ、音楽・歌の教材化
13	公民科指導案づくりの方法
14	学力観の変遷と公民科指導目標の設定方法
15	公民科学力試験 / 講義のまとめと夏休みの課題提示
16	予備

【履修上の注意事項】

芝田先生のクラスと登録者の調整を行う。延長となることがあるので6校時は必ず空けておくこと。

7月末に公民科学力試験(大学入試センター試験レベル)を行い、合格点に達しない者は不可とする。

教育実習の事前指導科目として位置づけるので遅刻や無断欠席はしてはならない。

夏休みに課題(後期実施の模擬授業の指導案の素案と教材研究レポート)を課し、提出のない者は後期の演習に進めない。現代社会・政治経済・倫理の教科書と用語集(山川出版)を必ず購入すること。

【評価方法】

出席・参加状況と公民科学力試験によって行う。

遅刻と欠席が1度でもある場合、原則として不可とする。

割り当てられた課題発表ができなかった場合も不可とする。

学期末実施の公民科学力試験の6割未満の成績の場合、不可とする。

不可でない場合は優とする。

【テキスト】

配付するプリント資料。

【参考文献】

1. 加藤西郷他編著『社会・地歴・公民科教育論』高菅出版、2002年。 2. 森分孝治他編著『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書、2000年。 3. 歴史教育者協議会 <http://www.jca.apc.org/rekkyo/> 4. 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年。

社会科・公民科教育法

担当教員 福島 賢二

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業は、中学社会科に関する教職科目として開講されたものである（中学社会科免許だけか、中学社会科免許と高校社会科系免許の複数を取得希望のもののみが受講すること）。社会科といってもその対象とするところは、地理・歴史・公民と幅広い。そこで本授業では、各領域に通底する知識である社会を科学的に分析する能力を育むこと基礎に、授業を構成する力量を獲得することを目標とする。授業は毎時間報告者を決め、報告者による発表とそれに対する質問と討議で行っていく。受け身ではなく、積極的な参加がなければ成立しない授業であるため、受講者の主体的参加を期待する。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス（文献購読の際のグループ分け）
- 2 指導案の作成
- 3 指導案の発表と検討
- 4 社会を科学する①（文献購読と発表）
- 5 社会を科学する②（文献購読と発表）
- 6 社会を科学する③（文献購読と発表）
- 7 社会を科学する④（文献購読と発表）
- 8 社会を科学する⑤（文献購読と発表）
- 9 模擬授業①
- 10 模擬授業②
- 11 授業づくりと方法①
- 12 授業づくりと方法②
- 13 模擬授業③
- 14 模擬授業④
- 15 授業づくりと方法③
- 16 模擬授業⑤

【履修上の注意事項】

- (1) 指定テキストの購入を義務づける可能性がある（初回授業でアナウンスする）
- (2) 報告者はレジュメや指導案の作成が課せられる。作成を怠った場合、その時点で履修をとりやめてもらう
- (3) 各自報告にあたっては、図書館での調べ物等かなりの時間を要することを念頭に入れておくこと
- (4) 報告に関わる討議のため時間が延長することが頻繁にある。6校時以降の時間を空けるよう調整すること

【評価方法】

評価は、出席状況、授業態度（質問・討議への参加状況）、報告レジュメの作成・貢献度、報告・貢献度及び模擬授業及び指導案の内容、によって総合的に行う。なお義務づけられた報告を怠った場合は「不可」とする。

【テキスト】

以下3点の文献を検討している。①堤未果『社会の真実の見つけかた』岩波J新書、2011年、811円＋税。②想田和弘『日本人は民主主義を捨てたがっているのか？』岩波書店、2013年、600円＋税。③鎌田慧『人権読本』岩波J新書、2001年、740円＋税or中馬清福『日本の基本問題を考えてみよう』岩波J新書、2009年、780円＋税。

【参考文献】

浜林正夫『社会を科学する』学習の友社、1985年。川井龍介『社会を生きるための教科書』岩波ジュニア新書、2010年。山口二郎『政治のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書、2009年。中馬清福『日本の基本問題を考えてみよう』岩波ジュニア新書、2009年新藤宗幸『行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2009年。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日文・英米以外

【授業のねらい】

「社会科・公民科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、全員模擬授業を実践する。生徒役として模擬授業を受ける際は、授業の分析と批評を行い、授業実践の力量形成の一助とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	模擬授業を実践するに当たって
3	模擬授業の実践
4	模擬授業の実践
5	模擬授業の実践
6	模擬授業の実践
7	模擬授業の実践
8	模擬授業の実践
9	中間総括：成果と課題
10	模擬授業の実践
11	模擬授業の実践
12	模擬授業の実践
13	模擬授業の実践
14	模擬授業の実践
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

前期「社会科・公民科教育法」芝田クラスと連続して受講しなければならない。また、前年度に同科目の単位を修得済みの学生も、前期に芝田クラスで聴講しておかなければ本演習は受講できない。夏休みの課題未提出の者も受講不可。なお、学習指導案作成と模擬授業の事前練習に時間と労力を要することを念頭に受講すること。無断欠席や遅刻も絶対にしてはならない。ただし、少人数の場合、三村クラスに統合される場合がある。

【評価方法】

出席・参加状況と模擬授業によって判断する。遅刻・欠席が一度でもある場合は原則不可となる。提出すべき物が未提出の場合も同じく不可。模擬授業不成立の場合も不可となる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「社会科・公民教育法」「社会科・地理歴史科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、全員模擬授業を実践する。模擬授業は、学校現場、中学生の社会科学習の実態を意識して行う。模擬授業の際、授業者以外の履修者は生徒役として参加し、授業分析や批評を行い、相互に実践的力量を高めてもらう。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 班編成と模擬授業のテーマ設定
- 3 模擬授業と授業批評
- 4 模擬授業と授業批評
- 5 模擬授業と授業批評
- 6 模擬授業と授業批評
- 7 模擬授業と授業批評
- 8 模擬授業と授業批評
- 9 模擬授業と授業批評
- 10 模擬授業と修行批評
- 11 模擬授業と授業批評
- 12 模擬授業と授業批評
- 13 模擬授業と授業批評
- 14 模擬授業と授業批評
- 15 模擬授業と授業批評

【履修上の注意事項】

- (1) 「社会科・地理歴史教育法」（3年後期）の単位を修得済みでなければ受講できない。
- (2) 学習指導案作成と模擬授業の事前練習に、時間と労力を要することを念頭に置くこと。
- (3) 「教育実習A・B」につながる科目なので、無断欠席や遅刻は絶対にしないこと。
- (4) 3, 4年次混合の班を編成し、学習集団の基礎単位とする。
- (5) ガイダンスは中学校の2つのゼミ（藤波ゼミ・吉浜ゼミ）合同で実施する。

【評価方法】

- (1) 模擬授業をしない者は無条件に不合格とする。
- (2) ①出席・態度・意欲 20点
②提出物(授業評価表・授業反省文) 10点
③学習指導案・模擬授業 70点
①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

必要に応じて中学校地理・歴史・公民の教科書を購入する。
他については自作のテキストを使用する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日文・英米を除く

【授業のねらい】

本講義は、社会科・公民科教育法で修得したことを前提として、中学校社会科教育における実践的な技能の修得を目的としている。具体的には、教材研究及び指導案作成の能力、模擬授業の実践能力、また他人の模擬授業に対する批判的分析能力の基礎の育成をめざす。また、本講義は4年次を対象とする社会科・地理歴史科教育法演習との合同授業であるので、すでに1回目の模擬授業を実施した4年生との交流を通じて教材研究の方法、指導案の作成方法等、模擬授業への取り組み方をしっかり学んでもらいたい。

【授業の展開計画】

受講生の数によっては、正規時間内では模擬授業を終了させることができないため、7校時または日曜日等に数回補講をおこなう。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	グループ分けと模擬授業のテーマ決定
3	公民的分野の教育目的
4	指導案の書き方
5	模擬授業と批判的分析①
6	模擬授業と批判的分析②
7	模擬授業と批判的分析③
8	模擬授業と批判的分析④
9	模擬授業と批判的分析⑤
10	模擬授業と批判的分析⑥
11	模擬授業と批判的分析⑦
12	模擬授業と批判的分析⑧
13	模擬授業と批判的分析⑨
14	模擬授業と批判的分析⑩
15	模擬授業と批判的分析⑪
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、教職課程の「教職に関する科目」として開講され、中学校社会科の教員免許の取得を目指す者に対して開設されており、福島先生担当の社会科・公民科教育法の単位修得を前提としている。
- ② 教職をめざす者が受講するのであるから、無断で遅刻・欠席しないことは勿論である。
- ③ 模擬授業への取り組みは個人作業であると同時に、グループによる共同作業でもある。参加者には、他のメンバーと共に学び、成長していこうとする意識をもって取り組んでもらいたい。

【評価方法】

指導案の作成（40%）、模擬授業への取組（40%）および他者が実施する模擬授業へのコメント（20%）の総合評価とする。

【テキスト】

中学校社会科公民的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・公民科教育法演習

担当教員 三村 和則

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「社会科・公民科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1時間（標準50分）の模擬授業を行い、授業実践の力量を身につける。生徒役として模擬授業を受ける際は授業の分析と批評を行い、授業実践の力量形成の一助とする。課外活動としてクラス行事を自主的に企画・実施し、学級経営の指導力量も形成したい。以上を通して、教育実習のための資質・能力を準備する。

【授業の展開計画】

基本的に毎回模擬授業者2名が模擬授業を1時間ずつ行う形で進めていく。模擬授業後には相互に授業批評を行う。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、夏休みの課題の受理
2	学習指導案の素案と教材研究レポートの講評
3	公民科の授業ビデオ視聴と「授業改善視点表」の記入方法について
4	模擬授業の実践
5	模擬授業の実践
6	模擬授業の実践
7	模擬授業の実践
8	模擬授業の実践、中間総括（成果と課題）
9	模擬授業の実践
10	模擬授業の実践
11	模擬授業の実践
12	模擬授業の実践
13	模擬授業の実践
14	模擬授業の実践
15	模擬授業の実践、まとめ
16	

【履修上の注意事項】

前期の「社会科・公民科教育法」三村クラスと連続して受講しなければならない。前の年度に単位修得済みの者でも前期に聴講しておかなければ受講できない。延長となることがあるので必ず6校時は空けておくこと。夏休みの課題（模擬授業の指導案の素案と教材研究レポート）の提出のない者は受講できない。模擬授業の指導案作成と事前練習に相当の時間と労力を要することを念頭におき、受講すること。教育実習に直接つながる科目なので、遅刻や無断欠席は絶対にしてはならない。不合格となることがある。

【評価方法】

出席・参加状況と模擬授業によって行う。
遅刻と欠席が1度でもある場合、原則として不可とする。
提出物（修正指導案、授業感想、授業評価等）を提出しない場合、不可とする。
模擬授業を成立させることのできない場合、不可とする。
不可でない場合は優とする。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

- 藤井剛『詳説 政治・経済研究』山川出版社、2008年。
- 歴史教育者協議会<http://www.jca.apc.org/rekkyo/>
- 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年

社会科・公民科教育法演習

担当教員 野見 収

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「社会科・公民科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。したがって、学生各人のコミュニケーションスキルの深化が強く求められると考えてよい。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 自己紹介、グループ分け
- 3 社会科教育の目的と課題
- 4 指導案の書き方の復習
- 5 模擬授業・分析と評価 (1)
- 6 模擬授業・分析と評価 (2)
- 7 模擬授業・分析と評価 (3)
- 8 模擬授業・分析と評価 (4)
- 9 模擬授業・分析と評価 (5)
- 10 模擬授業・分析と評価 (6)
- 11 模擬授業・分析と評価 (7)
- 12 模擬授業・分析と評価 (8)
- 13 模擬授業・分析と評価 (9)
- 14 模擬授業・分析と評価 (10)
- 15 模擬授業・分析と評価 (11)

【履修上の注意事項】

「社会科・公民科教育法」の単位を取得済みでなければ受講できない。正当な理由のない遅刻、欠席は認めない。まわりの者は皆、同じ志をもつ「仲間」であるとの意識を強く持って受講して欲しい。

【評価方法】

受講態度、作成した指導案、模擬授業、その他提出物によって総合的に評価する。なお、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。

【テキスト】

中学校社会科公民分野の教科書など。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社文・人福対象

【授業のねらい】

授業研究・教材研究などを実践的に訓練する中から、「楽しい授業、分かる授業」を追求する。その上で自己の授業イメージを形成し、学習指導案を作成することで結実させる。履修生の状況によっては実践的かつ訓練的な講義をすることもある。授業構想力・教材発掘と研究の成果を結実させた学習指導案の作成、さらに部分的な授業実践ができる授業力を育成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	社会科の歴史と学習指導要領
3	授業研究①
4	授業研究②
5	授業研究③
6	教材研究①
7	教材研究②
8	教材研究③
9	学習指導案の作成
10	学習指導案の発表
11	学習指導案の発表
12	学習指導案の発表
13	学習指導案の発表
14	学習指導案の発表
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 前期の「社会科・公民教育法演習」履修済みの者が受講できる。
- (2) 地域の教材化のため、時間外にフィールドワークも取り入れる。
- (3) 次年度の「教育実習A・B」につながる科目であるため、遅刻や無断欠席はしないこと。
- (4) 実践的な講義が望ましいと判断される場合には講義計画の変更もあり得る。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 - ②課題レポート 10点
 - ③授業実践 20点
 - ④学習指導案（細案）50点
- ①+②+③+④=100点満点で評価する。

【テキスト】

必要に応じて中学校の歴史・地理・公民の教科書を購入すること。
他については自作のテキストを使用する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 崎浜 靖

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化学科対象

【授業のねらい】

本講義では、高等学校の地理・歴史教育の理論の修得を基本に、授業研究・教材研究の方法を体得させる。とくに、模擬授業への参加や授業実践論文の分析を通して、現場の状況に対応した学習指導案の作成を目指す。また本講義では、学校現場の課題について幅広く議論しながら、実践的なトレーニングの場となることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	社会科・地理歴史科の歴史と学習指導要領
3	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標と課題
4	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標と課題
5	高等学校の中堅教師との情報交換会
6	教材研究と授業方法論①
7	教材研究と授業方法論②
8	教材研究と授業方法論③
9	模擬授業の見学・討論①
10	模擬授業の見学・討論②
11	学習指導案の作成方法
12	学習指導案作成の手順
13	学習指導案の発表①
14	学習指導案の発表②
15	学習指導案の検討
16	まとめ

【履修上の注意事項】

①遅刻厳禁。②各種提出物の期日を厳守すること。③受講生からの要望があれば、学校現場での授業参観も検討したい。④その他、授業の中で指示する。

*「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位を修得済みであること。

【評価方法】

①出欠・遅刻などにみられる授業への参加の程度。②授業時における質問・意見や討論・発表などにみられる熱意や態度。③授業感想文・意見文、課題レポート、学習指導案や野外学習などに示された学習・研究活動への熱意や成果。④その他、指定した課題レポートで総合的に判断する。

【テキスト】

高等学校用教科書：東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『世界史B』帝国書院『新詳高等地図』。学習指導要領解説編（高校地歴科編）

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 野見 収

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化学科対象

【授業のねらい】

社会科教育は、子どもたちがその将来において、自らが住まう社会の成り立ちや現状をいかなるものとして考え、認識していくかを決定付ける、極めて責任の重い仕事である。そうである以上、社会科教員を志す者には、社会と教育に対する深い考察能力が求められることになる。したがって本講義ではまず、いくつかの資料・論考をもとに、ゼミ形式で議論をおこない、学生たちの社会科学的・教育学的考察能力の練成をめざす。そして、その学習成果をふまえて、教材研究、指導案作成、模擬授業の実践へと進む。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 中学校社会科教育における目的と課題
- 3 社会科学的・教育学的認識の練成 (1) 一ゼミ形式による討議①
- 4 社会科学的・教育学的認識の練成 (2) 一ゼミ形式による討議②
- 5 社会科学的・教育学的認識の練成 (3) 一ゼミ形式による討議③
- 6 社会科学的・教育学的認識の練成 (4) 一ゼミ形式による討議④
- 7 社会科学的・教育学的認識の練成 (5) 一ゼミ形式による討議⑤
- 8 社会科学的・教育学的認識の練成 (6) 一ゼミ形式による討議⑥
- 9 社会科学的・教育学的認識の練成 (7) 一ゼミ形式による討議⑦
- 10 模擬授業・分析と評価 (1)
- 11 模擬授業・分析と評価 (2)
- 12 模擬授業・分析と評価 (3)
- 13 模擬授業・分析と評価 (4)
- 14 模擬授業・分析と評価 (5)
- 15 模擬授業・分析と評価 (6)

【履修上の注意事項】

「社会科・公民科教育法演習」の単位を取得済みでなければ受講できない。正当な理由のない遅刻、欠席は認めない。まわりの者は皆、同じ志をもつ「仲間」であるとの意識を強く持って受講して欲しい。

【評価方法】

出席状況、受講態度、ゼミ発表、模擬授業、指導案、その他の提出物によって総合的に評価する。なお、ゼミ発表、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書など。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考 法学部・経済学部・社文・人福対象

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近年、領土問題に代表されるように社会科教育、とくに歴史教育は国民的な議論となり、学習指導要領や教科書検定基準も改訂と相まって、多様な意見が表明されている。また、知識習得一辺倒の社会科教育方向性は、大きな転換を迫られている。そこで本講義では、中学校で社会科を教えることの意味、社会科を学ぶ意義、学校教育における歴史教育の意味と魅力ある歴史授業の在り方について、講義と班による討論、そして班レポートの作成を通じて理解することを目的とする。また、指導案の作成を通じて、教材研究の重要性を実感し、教育現場にたつための基本的技能の修得も目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	中学校教育における社会科教育の目的①：学習指導要領改訂の経緯
3	中学校教育における社会科教育の目的②：地理的分野・歴史的分野のねらい
4	中学校をとりまく社会状況と社会科教員①：「教育改革」の背景
5	中学校をとりまく社会状況と社会科教員②：「教育改革」の実際
6	中学校教育をとりまく現状①：先輩から話を聴こう
7	中学校教育をとりまく現状②：先輩から話を聴こう
8	歴史教育をめぐる社会状況①：「歴史教科書」問題の経緯
9	歴史教育をめぐる社会状況②：「従軍慰安婦」掲載論争
10	歴史教育をめぐる社会状況③：「教科書」を考える
11	社会科における学力とは①：「学力」は低下したのか？
12	社会科における学力とは②：「学力」とは何か？
13	社会科における学力とは③：社会科における「学力」とは何か？
14	魅力ある歴史教育のための工夫：実践論文の検証
15	魅力ある地理教育のための工夫：実践論文の検証
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、教職課程の「教職に関する科目」として開講され、中学校社会科の教員免許の取得を目指す者に対して開設されており、藤波担当の社会科・公民科教育法演習の単位修得を前提としている。
- ② 教職をめざす者が受講するのであるから、無断で遅刻・欠席しないことは勿論である。
- ③ 班のレポート、指導案の提出のない場合は不合格となる。
- ④ 自ら積極的に学ぼうとする意欲、ゼミの各種行事に積極的に関わろうとする意欲を強く持つことを求める。

【評価方法】

版レポート（60%）、指導案（30%）および受講時の発言（10%）による総合評価とする。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 野見 収

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「社会科・地理歴史科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。したがって、学生各人のコミュニケーションスキルの深化が強く求められると考えてよい。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 自己紹介、グループ分け
- 3 社会科教育の目的と課題
- 4 模擬授業・分析と評価 (1)
- 5 模擬授業・分析と評価 (2)
- 6 模擬授業・分析と評価 (3)
- 7 模擬授業・分析と評価 (4)
- 8 模擬授業・分析と評価 (5)
- 9 模擬授業・分析と評価 (6)
- 10 模擬授業・分析と評価 (7)
- 11 模擬授業・分析と評価 (8)
- 12 模擬授業・分析と評価 (9)
- 13 模擬授業・分析と評価 (10)
- 14 模擬授業・分析と評価 (11)
- 15 模擬授業・分析と評価 (12)

【履修上の注意事項】

「社会科・地理歴史科教育法」の単位を取得済みでなければ受講できない。正当な理由のない遅刻、欠席は認めない。まわりの者は皆、同じ志をもつ「仲間」であるとの意識を強く持って受講して欲しい。

【評価方法】

受講態度、作成した指導案、模擬授業、その他提出物によって総合的に評価する。なお、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書など。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、社会科地理歴史科教育法で修得したことを前提として、社会科教育の実践的な技能の修得・向上、並びに最後の模擬授業実践を通じた教育実習参加への意識高揚を目的としている。具体的には、指導案作成能力、模擬授業を通じた授業実践能力、模擬授業への参加による授業批判力等の技能の向上をめざす。さらに、本講義は3年生を対象とする社会科公民科教育法演習との合同授業なので、これから模擬授業を実施しようとする3年生の見本となるように教材研究、指導案の作成、模擬授業の実践等に取り組んでもらいたい。

【授業の展開計画】

受講者の数によっては、正規時間内では模擬授業を終了させることができないため、7校時または日曜日等に数回補講をおこなう。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	グループ分けと模擬授業のテーマ決定
3	社会科の教育目的の復習
4	模擬授業と批判的分析①
5	模擬授業と批判的分析②
6	模擬授業と批判的分析③
7	模擬授業と批判的分析④
8	模擬授業と批判的分析⑤
9	模擬授業と批判的分析⑥
10	模擬授業と批判的分析⑦
11	模擬授業と批判的分析⑧
12	模擬授業と批判的分析⑨
13	模擬授業と批判的分析⑩
14	模擬授業と批判的分析⑪
15	模擬授業と批判的分析⑫
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、教職課程の「教職に関する科目」として開講され、中学校社会科の教員免許の取得を目指す者に対して開設されており、藤波担当の社会科・地理歴史科教育法の単位修得を前提としている。
- ② 教職をめざす者が受講するのであるから、無断で遅刻・欠席しないことは勿論である。
- ③ 模擬授業への取り組みは個人作業であると同時に、グループによる共同作業でもある。参加者には、他のメンバーと共に学び、成長していこうとする意識をもって取り組んでもらいたい。

【評価方法】

指導案の作成（40％）、模擬授業の取組（40％）及び他者の模擬授業へのコメント（20％）による総合評価。

【テキスト】

中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 法律・地域行政・商経・社文・人福

【授業のねらい】

「社会科・公民教育法」「社会科・地理歴史科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、全員模擬授業を実践する。模擬授業は、学校現場、中学生の社会科学習の実態を意識して行う。模擬授業の際、授業者以外の履修者は生徒役として参加し、授業分析や批評を行い、相互に実践的力量を高めてもらう。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 班編成と模擬授業のテーマ設定
- 3 模擬授業と授業批評
- 4 模擬授業と授業批評
- 5 模擬授業と授業批評
- 6 模擬授業と授業批評
- 7 模擬授業と授業批評
- 8 模擬授業と授業批評
- 9 模擬授業と授業批評
- 10 模擬授業と修行批評
- 11 模擬授業と授業批評
- 12 模擬授業と授業批評
- 13 模擬授業と授業批評
- 14 模擬授業と授業批評
- 15 模擬授業と授業批評

【履修上の注意事項】

- (1) 「社会科・地理歴史科教育法」（3年後期）の単位を修得済みでなければ受講できない。
- (2) 学習指導案作成と模擬授業の事前練習に、時間と労力を要することを念頭に置くこと。
- (3) 「教育実習A・B」につながる科目なので、無断欠席や遅刻は絶対にしないこと。
- (4) 3, 4年次混合の班を編成し、学習集団の基礎単位とする。
- (5) ガイダンスは中学校の2つのゼミ(藤波ゼミ・吉浜ゼミ)合同で実施する。

【評価方法】

- (1) 模擬授業をしない者は無条件に不合格とする。
- (2) ①出席・態度・意欲 20点
②提出物(授業評価表・授業反省文) 10点
③学習指導案・模擬授業 70点
①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

必要に応じて中学校地理・歴史・公民の教科書を購入する。
他については自作のテキストを使用する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

社会科・地理歴史科教育法演習

担当教員 崎浜 靖

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①前期の地理歴史科教育法をふまえて、模擬授業を実施する。
- ②教材研究の方法と学習指導案作成の実際について、総合的な理解を深める。
- ③模擬授業による自己評価と他者批評を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教科教育法演習の進め方
2	教材研究および学習指導案の作成
3	教材研究および学習指導案の作成
4	現職教員を招いての講話とディスカッション①
5	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会
6	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会
7	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会
8	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会
9	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会
10	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会
11	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会
12	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会
13	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会
14	現職教員を招いての講話とディスカッション②
15	教育実習に向けての教材研究・授業実践の検討
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ①遅刻厳禁。
- ②各種提出物の期日を厳守すること。
- ③模擬授業時は、発表者はリクルートルック（ネクタイ・スーツ等）の服装で受講のこと。

【評価方法】

- ①出欠・遅刻などにみられる授業への参加の程度。
- ②学習指導案の内容と模擬授業の成果。
- ③模擬授業合評会での発言および熱意・態度。
- ④授業感想文・意見文、課題レポートなどに示された学習活動への熱意や態度で総合的に判断する。

【テキスト】

東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『新選世界史B』、帝国書院『地歴高等地図-現代世界とその歴史的背景-最新版』、学習指導要領解説編（高校地歴）および副教材。以上の教科書・地図帳・学習指導要領解説編は各自で購入のこと。

【参考文献】

随時、紹介する。

商業科教育法

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義ではまず、商業教育の歴史的変遷をたどることで、高等学校における商業教育の意義と役割を学びます。次いで、学習指導要領に基づき、①教科「商業」の目標と組織、②各科目の目標と授業内容を理解します。さらに、後期の模擬授業に向けて、学習指導の形態と方法、学習指導案の作成方法を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	高等学校における商業教育の意義
3	高等学校における商業教育の歴史（教育課程の変遷）
4	学習指導要領における教科「商業」の目標と組織
5	各科目の目標と授業内容（教科の基礎的科目）
6	各科目の目標と授業内容（教科の総合的科目）
7	各科目の目標と授業内容（マーケティング分野の科目）
8	各科目の目標と授業内容（ビジネス経済分野の科目）
9	各科目の目標と授業内容（会計分野の科目）
10	各科目の目標と授業内容（ビジネス情報分野の科目）
11	学習指導の形態と方法
12	評価
13	学習指導案の作成（ビジネス基礎）
14	学習指導案の作成（簿記）
15	高等学校における商業教育の現状と課題
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。
- ② 教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。

【評価方法】

出席、受講態度、課題などで、総合的に評価します。

【テキスト】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説商業編』実教出版。
片岡寛他『ビジネス基礎（新訂版）』実教出版
安藤英義他『新簿記（新訂版）』実教出版。

【参考文献】

日本商業教育学会『教職必修最新商業科教育法』実教出版。
吉野弘一『商業科教育法－21世紀のビジネス教育』実教出版。

商業科教育法演習

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

来年6月の教育実習に向けて、模擬授業を行います。模擬授業を行うことによって、学習指導案の作成方法や効果的な指導方法など、実践的な技能を習得します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	模擬授業
3	模擬授業
4	模擬授業
5	模擬授業
6	模擬授業
7	模擬授業
8	社会人講師（高校の教員）による講話
9	模擬授業
10	模擬授業
11	模擬授業
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	模擬授業
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ① 「商業科教育法」を履修済みの学生しか登録できません。
- ② 教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。
- ③ 教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。

【評価方法】

出席、受講態度、課題などで、総合的に評価します。

【テキスト】

片岡寛他『ビジネス基礎（新訂版）』実教出版
安藤英義他『新簿記（新訂版）』実教出版。

【参考文献】

使用しません。

進路指導・生活指導

担当教員 東畑 開人

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

進路指導・生活指導

担当教員 片本 恵利

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即してより実践的に学んでいく[中級編]である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録調整
2	発達① 思春期・青年期① 中学高校生の発達とアイデンティティ
3	発達② 思春期・青年期② 学校現場での性教育
4	進路指導① 進路指導の歴史と、今日の日本でめざされているキャリア教育
5	進路指導② 青年期の発達課題を踏まえた進路指導
6	進路指導③ 生徒の心に添う進路指導とは
7	生徒の示す問題行動の理解① 不登校 その1 (不登校に関する理論/青年期の発達課題と不登校)
8	生徒の示す問題行動の理解② 不登校 その2 (理論を踏まえた不登校への対応)
9	生徒の示す問題行動の理解③ 非行 その1 (青年期の発達課題と非行/薬物乱用)
10	生徒の示す問題行動の理解④ 非行 その2 (初発型非行への対応)
11	授業・学級経営のヒント① いじめと体罰 その1
12	授業・学級経営のヒント② いじめと体罰 その2
13	授業・学級経営のヒント③ いじめと体罰 その3
14	教師と保護者・専門機関との連携
15	まとめと振り返り
16	

【履修上の注意事項】

受講環境を考慮して、他のクラスへ移動してもらうこともある。

【評価方法】

課題レポート、筆記試験、授業への参加態度などから総合的に評価する。
教職を目指すに当たって必要な「読む・書く・話す」力を身につけていることを単位取得の条件とするため、予習・復習の課題レポートを重視する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義内で適宜資料を配付したり、各自で文科省や県教育委員会のHPなどから資料をダウンロードしたりして活用する。

【参考文献】

水谷 修「さらば、哀しみのドラッグ」高文研
森田ゆり「子どもと暴力」岩波書店 他

情報科教育法

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報科教員には、教員としての基本的な資質に加えて、一般の生徒に情報を教える能力や専門高校（情報科など）の生徒により専門的な情報教育を行う能力が必要となる。よって、自分自身が情報の各分野において深く本質を理解するとともに、それを高校生に効果的に教えるという教育技術も必要とされる。本講義では、教科としての「情報」の設置の経緯やその意味を考察して、現代社会における情報技術の必要性、今後の社会における情報技術の将来展望を解説し、各項目ごとの教育プランを体系的に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス／受講受付
2	情報科設立の経緯とその意味（情報教育の歴史）
3	情報教育の現状と課題
4	情報産業と社会の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
5	インターネットと倫理教育の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
6	情報の表現の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
7	アルゴリズムとフローチャートの分野について（目標・内容と指導方法の考察）
8	情報システムの設計と開発の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
9	ネットワークシステムの構築と管理運営の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
10	経済モデルとコンピュータシミュレーションの分野について（目標・内容と指導方法の考察）
11	コンピュータグラフィックスとデザインの分野について（目標・内容と指導方法の考察）
12	マルチメディア表現の方法の分野について（目標・内容と指導方法の考察）
13	情報各分野の模擬授業指導案の作成方法（1）
14	情報各分野の模擬授業指導案の作成方法（2）
15	後期「情報科教育法演習」の計画発表
16	総括

【履修上の注意事項】

教職志望の学生のみ登録を受け付け、「教育の思想と原則」「教育心理学」のそれぞれの単位を修得済みでなければ受講できない。「情報科教育演習」で行う模擬授業の準備が必要である。そのため、各担当分野の模擬授業指導案の素案を作成しなければならない。指導案の素案および出席状況を総合的に判断し評価する。また、登録は第1週目に行う。第1週目に登録できない者は事前に担当者に相談すること。なお、「ITパスポート試験」は登録時には取得しておかなければならない。

【評価方法】

基本的に欠席は認めない。授業態度とレポートで総合的に判断する。

【テキスト】

講義開始時に指定する。

【参考文献】

「情報科教育法」大岩元他，オーム社。「情報教育シリーズ 情報科教育法」岡本敏雄他，丸善

情報科教育法演習

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

【授業のねらい】

前期の「情報科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1時間（標準45分）の模擬授業を複数回行う。模擬授業を受ける際も授業分析を行わせ、授業実践の力量形成の一助とする。

【授業の展開計画】

1週目：ガイダンス

2、3週目：過去の授業資料配布および担当単元の設定

4～15週目：模擬授業

（学習指導案作成の指導と授業展開方法の指導並びに授業分析方法の指導）

教師役：学習指導案と教材資料の準備が完了後45分間の模擬授業を行う。授業後感想文を提出する。

生徒役：模擬授業を受ける。授業後は各回の教師役学生の評価や注意点などを指摘する。

模擬授業終了後、必ず討論を行い、良かった点、悪かった点のフィードバックを行う。

16週目：総括

【履修上の注意事項】

(1)「情報科教育法」の単位を修得済みでなければ受講できない。

また、「基本情報技術者試験」を取得済みでない受講できない。

(2)模擬授業の学習指導案作成と事前練習に相当の時間と労力を要することを念頭において受講すること。

(3)教育実習に直接つながる科目なので、遅刻や無断欠席は絶対してはならない。

【評価方法】

出席状況、学習指導案作成並びに模擬授業の内容によって評価する。

【テキスト】

『高等学校学習指導要領解説 情報編』

【参考文献】

「情報科教育法」大岩元他，オーム社。「情報教育シリーズ 情報科教育法」岡本敏雄他，丸善

特別活動研究

担当教員 三村 和則

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

特別活動の指導法に係る科目である。特別活動の内容は学級活動(進路指導と学業指導を含む)、生徒会活動及び学校行事に分けられる。それらを指導する際、その基礎となり、かなめとなるのは学級経営のあり方である。本講義では学級経営研究の一助として「学級集団づくり」の思想と方法を多様な角度から研究していく。「学級集団づくり」とは子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめ、学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ましていく営みのことである。

【授業の展開計画】

まず、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を踏まえ、子どもの見方・捉え方について研究し、そこでの子ども観を基礎にした「学級集団づくり」の方法論を、話し合いによる合意形成と自主管理の指導、リーダーとフォロアーの指導、小集団(班)指導の3つの側面から考察していく。それらに内在させて学級活動、生徒会活動及び学校行事の意義と具体的指導内容を検討する。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて
2	子どもの自立をめぐる問題状況1 自立の裏面としての問題行動
3	子どもの自立をめぐる問題状況2 子どもらしくない子どもの増加
4	子どもの自立をめぐる問題状況3 校内暴力・いじめ・不登校、体罰
5	共感的要求とその方法1 共感的要求とは何か
6	共感的要求とその方法2 否定の中に肯定を捉える
7	共感的要求とその方法3 「問題児はクラスの宝」 / 学級における集団の類型
8	「学級集団づくり」の3つの段階(指導の見通し)と3つの側面(指導の切り口)
9	「討議づくり」1 合意形成の指導と自主管理の指導
10	「討議づくり」2 学級行事原案づくりコンテスト
11	「核(リーダー)づくり」1 リーダーとフォロアーの民主的な関係の指導
12	「核(リーダー)づくり」2 リーダーシップとフォロアーシップの形成方法
13	「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班
14	「班づくり」2 班活動の種類と方法
15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ
16	試験

【履修上の注意事項】

抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。

学級担任の役割とは何か、朝の会・終わりの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動そして学校行事で、何をしていたか、また何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのか、を考えながら受講するとよい。教育実習に行く年(3年生2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、この講義内容と関連させると演習の理解が促進されるであろう。

【評価方法】

小レポートを3回程書いてもらう。その3分の2以上の提出をもって学期末試験の受験資格とすることがある。

評価は主に学期末試験によって行い、小レポートの提出状況と内容により±3点を加点する。

試験が論述問題の場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して(100%=満点)配点する。

試験以外に課題(「学級集団づくり」構造表の書写など)を課し、20点程度配点することがある。

【テキスト】

配付するプリント資料。

【参考文献】

1. 全国生活指導研究協議会常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。
2. 高田清他編『特別活動の基礎と展開』コレール社、1999年。
3. 全生研<http://members.jcom.home.ne.jp/zenseiken/>
4. 文部科学省『中学校学習指導要領』2008年。
5. 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年。

道徳教育の研究

担当教員 野見 収

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

道徳教育とは何か。それは、ある一つの道徳の形を子どもたちに教え込むことではなく、「道徳とは何か」を子どもたちとともに考えることではないだろうか。本講義では、道徳教育の歴史を整理し、これまで学校教育に求められてきた「道徳」なるものの質を確認する。そのことを通じ、学生たちとともに、教職を志す者が道徳教育について今後考えていくべき課題を模索したい。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 道徳教育の歴史（1）—近代教育の幕開け
- 3 道徳教育の歴史（2）—皇国民化教育
- 4 道徳教育の歴史（3）—戦後教育改革
- 5 道徳教育の歴史（4）—現代教育と道徳教育①
- 6 道徳教育の歴史（5）—現代教育と道徳教育②
- 7 道徳教育の歴史（6）—現代教育と道徳教育③
- 8 道徳教育の歴史（7）—現代教育と道徳教育④
- 9 日の丸・君が代について（1）
- 10 日の丸・君が代について（2）
- 11 道徳教育の現状と課題（1）—沖縄における道徳教育①
- 12 道徳教育の現状と課題（2）—沖縄における道徳教育②
- 13 道徳教育の現状と課題（3）—沖縄における道徳教育③
- 14 道徳教育はどうあるべきか（1）
- 15 道徳教育はどうあるべきか（2）
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位を取得済みでなければ受講できない。遅刻・私語・無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上の出席がなければ、期末試験の受験は認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

道徳教育の研究

担当教員 三村 和則

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

道徳の指導法に係る科目として設けられた科目である。道徳教育の意味、わが国の学校における道徳教育の歴史、教育課程の各領域（「教科」「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」）における道徳教育の方法論を学ぶことにより、今日における道徳教育のあり方を批判的に吟味する視野と学校現場で道徳教育を創造的に実践する資質と能力を形成する。

【授業の展開計画】

まず、道徳教育の意味について明らかにする。次に、明治以降今日までの、わが国の学校における道徳教育の歴史を考察する。特に、戦前・戦中期の教育勅語を基礎に置き修身科の授業を中核とし他の授業及び教科外教育によって補完された、学校挙げての道徳教育体制である「修身教育体制」について、その生成・展開・消滅の過程を考察の対象とする。講義の後半では教育課程の各領域ごとに道徳教育の方法論を事例を通して考察する。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	道徳と道徳教育の構造
3	世界の学校における道徳教育 1 宗教(科) 特設の国々と道徳(科) 特設の国々
4	世界の学校における道徳教育 2 宗教(科)と道徳(科) 併設の国々、特設時間(教科) 無しの国々
5	教育勅語と修身教育体制 1 教育勅語発布の経緯
6	教育勅語と修身教育体制 2 教育勅語と修身教育体制の内容
7	修身教育体制への批判と抵抗
8	戦後教育改革と修身教育体制の解体
9	全面主義道徳体制から特設道徳体制へ
10	特設道徳（「道徳の時間」）以降の道徳教育
11	教科における道徳教育（訓育的教授）
12	特別活動と総合的な学習の時間における道徳教育
13	特設道徳（道徳の時間）の実践方法 1 道徳授業の原則
14	特設道徳（道徳の時間）の実践方法 2 模索される授業方法
15	特設道徳（道徳の時間）の授業の指導案づくり
16	試験

【履修上の注意事項】

抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。

道徳とは何か、現代社会ではどんな道徳が望ましいか、中学校の「道徳の時間」をどのように過ごしたか、教育実習で「道徳の時間」をどのように展開したらよいか、教科の授業や特別活動の時間などで道徳性を育てるとはということか、道徳性を育てることはどうして難しいのか、などの問題意識をもって受講するとよい。

【評価方法】

小レポートを3回程書いてもらう。その3分の2以上の提出をもって学期末試験の受験資格とすることがある。評価は主に学期末試験によって行い、小レポートの提出状況と内容により±3点を加点する。試験が論述問題の場合、各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して（100%＝満点）配点する。特設道徳（道徳の時間）について、学習指導案の作成や実践記録の分析レポートを課し、それに20点程度配点することがある。

【テキスト】

配付するプリント資料。

【参考文献】

1. 藤田昌士『学校教育と愛国心―戦前・戦後の「愛国心」教育の奇跡』学習の友社、2008年。2. 柴田義松編著『道徳教育―理論と実際』学文社、1992年。3. 大庭茂美他編著『道徳教育の基礎と展望』福村出版、1999年。4. 文部科学省『中学校学習指導要領』2008年。

道徳教育の研究

担当教員 -上地 完治

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】